



爽やか流の棋風で、将棋界でファンの多かった米長邦雄棋聖(元将棋連盟会長)。彼は山梨県の農家の四男で、小学校に上がる頃に将棋を始めたとのこと。米長が言ったとされる「兄たちは頭が悪かったので東大へ行った。自分は頭がいいから将棋指しになった」という言葉は有名で、実際に三人の兄は東京大学に進学しております。三人共ですよ。

四人で毎日将棋を指していたのですが、弟の邦雄がめきめきと力を付け、兄達を打ち負かすようになりました。その米長がプロになったのが19歳。将棋のプロになる為には関東と関西にある奨励会に入り、三段リーグ戦で各支部の上位二名に入ったものが晴れて四段に昇格してプロ入りとなります。ということは毎年四名の狭き門で、しかも29歳までという年齢制限があり、その制限によってどれだけ多くの棋士が涙を飲んでプロの道を断念したことか。

とにかくプロの将棋指しになるということは、米長の言うように東大へ行くより難しい道のりでありましょう。そんな将棋界に大変な中学生が現れました。最年少プロ棋士で中学三年生の藤井聡太四段(14)であります。プロになって負けなしの28連勝中。将棋を少し嗜んだことのある私からすると想像を絶する強さであります。棋力というものは長い経験を積んで徐々に上がっていくものだと思っていましたので、14歳で大人の棋士に勝つということが信じられないのです。

ところで、私は30代の頃、鈴鹿の将棋道場に月に何回かのペースで通っていたことがあります。その道場には、大人に交じって小学生の子どもがいました。何度か彼と対戦したのですが全く歯が立ちませんでした。彼の名は澤田真吾くん。暁中学に進学した後、17歳でプロになりました。今、彼はプロの六段の25歳であります。そして、先般行われた、藤井四段の連勝記録タイとなる28戦目の対戦相手が、その澤田真吾六段でありました。マスコミに注目されている藤井くんに対戦するのはやりにくいものだったでしょうね。マスコミは勝負飯ばかりに注目しているようですが、果たしてそこに興味がある人はどれほどいるのでしょうか。しかも、藤井くんが昼に何を食べたかは報道されるのに、対戦相手は何を食べたかは報道されない。あまりにも偏った報道と言えます。対戦相手がなければ将棋は指せないのですよ。

## 連絡事項

### 算数検定・数学検定

検定日 7月23日(日) 10時～  
試験時間 3～5級・・・<1次>60分<2次>60分 6級・・・50分

### 高3生、特にマーク模試の国語の点数が低い生徒へ

本番で8割、160点を目標にするためには、古典、漢文で最低各40点をゲットしてください。そのためにブロードバンドの受講をお奨めします。

古典 岡崎先生『センターレベル古文』(全11回)、漢文 矢崎先生『テーマ別攻略基礎漢文』(全16回)、現代文 小山先生『センターレベル現代文』(全11回)

例年、明正の先輩はこの講座を受けて本番で結果を出しています。この夏休み中に、必ず苦手を克服するように。